

治療薬 マニュアル

**MANUAL OF
THERAPEUTIC
AGENTS**

2013

監修

高久史麿
矢崎義雄

編集

北原光夫
上野文昭
越前宏俊

医学書院

治療薬 マニュアル

MANUAL OF
THERAPEUTIC
AGENTS

常州大学图书馆
藏 书 章

監修

高久史磨

日本医学会・会長

矢崎義雄

国際医療福祉大学・総長

編集

北原光夫

農林中央金庫健康管理室・室長

上野文昭

大船中央病院・特別顧問

越前宏俊

明治薬科大学教授・薬物治療学

医学書院

謹告 著者、編集者、監修者並びに出版社として、本書に記載されている情報が最新かつ正確であるように最善の努力をしておりますが、薬の用法・用量・注意事項等は、基礎研究や臨床治験、市販後調査によるデータの蓄積により、時に変更されることがあります。したがって、特に新薬などの使い慣れない薬の使用に際しては、読者御自身で十分に注意を払われることを要望いたします。

医学書院

1990年版	1990年1月15日第1刷 1990年8月1日第3刷	1997年版	1997年2月1日第1刷 1997年8月15日第2刷	2004年版	2004年2月1日第1刷 2004年7月15日第2刷
1991年版	1991年1月15日第1刷	1998年版	1998年2月1日第1刷 1998年8月1日第2刷	2005年版	2005年2月1日第1刷 2005年7月15日第2刷
1992年版	1992年1月15日第1刷 1992年8月1日第3刷	1999年版	1999年2月1日第1刷 1999年5月15日第2刷	2006年版	2006年2月1日第1刷 2007年版
1993年版	1993年1月15日第1刷 1993年5月15日第3刷	2000年版	2000年2月1日第1刷 2000年6月1日第2刷	2008年版	2008年2月1日第1刷 2009年版
1994年版	1994年1月15日第1刷 1994年6月15日第3刷	2001年版	2001年2月1日第1刷 2002年版	2010年版	2010年2月1日第1刷 2011年版
1995年版	1995年1月15日第1刷 1995年8月15日第3刷	2002年版	2002年2月1日第1刷 2002年8月15日第2刷	2011年版	2011年2月1日第1刷 2012年版
1996年版	1996年2月1日第1刷 1996年7月15日第2刷	2003年版	2003年2月1日第1刷 2003年9月1日第2刷	2012年版	2012年1月15日第1刷 2013年版
				2013年版	2013年1月1日第1刷◎

治療薬マニュアル 2013

監修者 たかく ふみまろ や ぎきよし お 高久史麿・矢崎義雄
 編集者 きたはらみつ お うえ の ふみあき えちぜんひろとし 北原光夫・上野文昭・越前宏俊
 発行者 株式会社 医学書院 代表取締役 金原 優
 〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
 電話 03-3817-5600(社内案内)

印刷・製本 アイワード

本書の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。

ISBN978-4-260-01677-3

医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

※本書の正確な情報を、弊社ホームページにて掲載いたします。

本書の使用に当たって適宜ご利用ください。

本書を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (®) 出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

治療薬マニュアル 2013

治療薬 マニュアル

2013 年版の序

24 年前に「治療薬マニュアル」がはじめて出版されて、ほぼ四半世紀にならんとしている。当時の「治療薬マニュアル」の厚さに比較してみると、現在のマニュアルは 2 倍近い厚さへと拡大している。この厚さは次々とマーケットにあらわれた新しい抗腫瘍薬あるいは抗自己免疫疾患薬としての分子標的薬、経口糖尿病薬の追加、新抗凝固薬などを加えた情報量の多さによる。また、すでに十分利用されていることであるが、後発品全てについて、それらの商品名、製薬会社名、剤形、規格単位を網羅してある。この点は一般名処方を考慮している医療機関に対して、十分な役割を果たしていると思う。後発品がこのマニュアルにのっているのも、他院からの患者がどのような後発薬を使用しているか知ることができ、誤投薬をさけることにも一翼を担っていると信じている。

さて「治療薬マニュアル 2013」でも、新たな要素が加わっている。妊婦および授乳婦への投薬リスクをアイコン形式で掲載するようにした。胎児あるいは乳児への薬物リスクは常に頭を悩ませる問題である。妊婦への投薬リスクはオーストラリア医薬品評価委員会からのデータを利用している。また、授乳婦への投薬リスクは Hale による「Medications and Mothers' Milk 2012」を参考にしており、ここにあげた 2 資料のデータは世界的に評価されており、わが国においても十分に利用できるものである。

本書はわが国で使われているほぼ全ての薬物を掲載しており、書籍形態によるだけでなく、「今日の診療 DVD-ROM・WEB 版・イントラネット版」でも幅広く活用されている。これらのマニュアルの使用方法是利用者の仕事場、年齢などによって、異なるであろうが、各セクションの最初にかげられたように薬物の特徴、あるいは主たる疾患に対する薬物の投与方法あるいは病態による薬物選択の違いなども配慮されており、利用しやすく工夫されている。

医療に携わる医師にとっては「今日の治療指針」との相互レファレンスにより、よりよい医療がおこなえると考え。また、教育制度の改正により、6 年制となった薬学を志す学生諸君はもとより、現場で処方に関与する薬剤師の方々の要望には対応できていると自負している。

最後に、このマニュアルの進歩発展に尽力された執筆者の方々と医学書院編集担当諸氏に心より感謝したい。

2012 年 10 月

北原光夫

執筆一覧

解説・処方例

(五十音順)

- 渥美 義仁 (東京都済生会中央病院・糖尿病臨床研究センター長)
- 上野 文昭 (大船中央病院・特別顧問)
- 越前 宏俊 (明治薬科大学教授・薬物治療学)
- 岡 慎一 (国立国際医療研究センター病院・ACC センター長)
- 北原 光夫 (農林中央金庫健康管理室・室長)
- 葛原 茂樹 (三重大学名誉教授・鈴鹿医療科学大学教授)
- 古泉 秀夫 (医薬品情報 21・代表)
- 後藤 伸之 (名城大学薬学部教授)
- 小山 茂 (東京都立広尾病院・内科部長)
- 杉山幸比古 (自治医科大学教授・副院長・呼吸器内科学)
- 高木 誠 (東京都済生会中央病院・院長)
- 高橋 尚人 (東京大学医学部附属病院准教授・総合周産期母子医療センター)
- 堤 治 (医療法人財団順和会山王病院・院長)
- 寺澤 捷年 (千葉中央メディカルセンター・和漢診療科部長)
- 富山 順治 (東京都立広尾病院・副院長)
- 中川 武正 (白浜町国民健康保険西宮川診療所・所長)
- 中山耕之介 (がん研有明病院総合内科・副部長)
- 奈良 信雄 (東京医科歯科大学大学院教授・臨床検査医学)
- 仁志田博司 (前東京女子医科大学教授・附属母子総合医療センター所長)
- 西山信一郎 (大手町フィナンシャルシティ西山クリニック・院長)
- 濱田 篤郎 (東京医科大学病院教授・渡航者医療センター)
- 藤本 卓司 (市立界病院・総合内科部長)
- 宮坂 信之 (東京医科歯科大学大学院教授・膠原病・リウマチ内科学)
- 村木 良一 (わたびきクリニック・副院長)
- 望月 眞弓 (慶應義塾大学薬学部教授・医薬品情報学)
- 八木 剛平 (翠星ヒーリングセンター)
- 山門 實 (三井記念病院・総合健診センター特任顧問)
- 渡辺健太郎 (東京都済生会中央病院・内科医長)

添付文書情報

(五十音順)

- 荒 義昭 (国立病院機構東京医療センター・薬剤科医薬品情報管理主任)
- 蟻川 勝 (国立病院機構東京病院・副薬剤科長)
- 飯合 等 (国立国際医療研究センター国府台病院・治療主任)
- 岡野由美子 (国立病院機構埼玉病院・薬務主任)
- 勝海 学 (国立国際医療研究センター病院・薬剤部薬務主任)
- 近藤 直樹 (国立病院機構東京医療センター・治療主任)
- 鈴木 義彦 (国立病院機構東京医療センター・薬剤科長)
- 濱 敏弘 (がん研有明病院・薬剤部長)
- 谷地 豊 (国立病院機構西埼玉中央病院・副薬剤科長)
- 山岸美奈子 (国立病院機構本部総合研究センター・治療専門職)

■各剤形は下記の略記号を用いた。

内＝内服薬	トロ＝トローチ	DS＝ドライシロップ	軟＝軟膏	点鼻＝点鼻薬
注＝注射薬	カ＝カプセル	末＝末末	ク＝クリーム	点耳＝点耳薬
外＝外用薬	徐カ＝徐放カプセル	坐＝坐薬	ゲ＝ゲル	点眼＝点眼液
徐＝徐放薬	液＝液剤	静＝静注	ゼ＝ゼリー	眼軟＝眼軟膏
吸＝吸入薬	散＝散剤	筋＝筋注	貼＝貼付剤	Ki＝キット製剤
錠＝錠剤	細＝細粒	点＝点滴静注	テ＝テープ剤	腔＝腔錠/坐薬
徐食＝徐放錠	顆＝顆粒	シリ＝シリンジ	パ＝パップ剤	
腸溶＝腸溶錠/カプセル	シ＝シロップ	皮＝皮下注	ス＝スプレー	

用法・用量

- ・原則として成人の用法・用量(有効成分)である。
- ・用法上の重要な注意事項は、この欄に簡条書きで記した。
(例：▶1日量は30mgを超えない)
- ・適応症によって用法・用量が異なる場合は、見出し、番号(1, 2, 3...)をつけて書き分けた。
- ・投与期間の目安となるような添付文書情報は、極力この欄に簡条書きで記した。
- ・製剤の味・風味情報は、この欄に記した。
- ・公知申請の事前評価が終了し、保険適用の対象となる用法・用量は、**④**に記した。

内＝内服

- ・投与時間の記載のない場合は、原則として**食後**とする。

注＝注射

- ・注射剤の溶解法は、この欄に簡条書きで記した。
(例：▶添付溶解液に溶解し生食液で希釈して使用する)
- ・溶解上の注意(例：溶解後は速やかに使用する)は**注意**の中の**(溶解)**の項に記した。

児＝小児

- ・小児の用法・用量及び重要な注意はここに記した。
- ・小児の一般的注意は、**注意**の中の**児**に記した。

内 1日10～30mg 分2～3(食前)(増減)

注 1回10mg 1日1～2回 筋注・静注

▶1日量は30mgを超えない

児 ①1日0.5～0.7mg/kg 分2～3(食前)過量投与注意(錐体外路症状)

▲警告 本剤の投与により、脳出血が起こることがあるので、投与に際しては「**禁忌**」及び「**使用上の注意**」に留意し、適用患者の選択を慎重に行う。

【禁忌】 1)出血(消化管出血、尿路出血、後腹膜出血、頭蓋内出血、喀血)(出血助長し、止血困難) 2)妊婦又は妊娠の可能性

【作用】 血栓のフィブリンに特異的に吸着してプラスミノゲンをプラスミンに変換させ、生成したプラスミンがフィブリンを分解することにより血栓を溶解する。

【適応】 急性心筋梗塞における冠動脈血栓の溶解(発症後6時間以内) **【注意】** 1)冠動脈造影により血栓を確認した後、投与開始が望ましいが、冠動脈造影実施が困難な場合は、

▲警告

添付文書の**(警告)**を太文字で強調して記載した。

【禁忌】

添付文書の**全情報**を記載した。その理由が明らかなものは()内に略記した。「妊婦又は妊娠の可能性」は、「妊婦又は妊娠している可能性のある婦人」を意味する。

【作用】

薬理作用や薬効機序を簡潔にまとめた。

【適応】(適応菌種)

- ・添付文書の**(効能・効果)**を全て収録した。剤形によって効能が異なる場合も全て書き分けた。ただし、著しく異なる場合は、それぞれの薬効群に分散した。**【注意】**には添付文書の**(適応上の注意)**を記載した。
- ・公知申請の事前評価が終了し、保険適用の対象となる効能・効果は、**④**に記した。
- ・漢方薬(p.2151～2187)の**【目標】**と**【適応】**については日本医師会発行の「医薬品カード」を参考としており、各メーカーの適応とは一部異なっている。

相互

添付文書の全情報を《併用禁忌》と《併用注意》に分けて記載した。またその理由も付記した。添付文書を以下のように簡略化した。

(例：A薬を併用する場合の書き分け)

「A薬との併用により本剤の作用が**増強**されるので併用は**慎重**に」→A薬：作用**増強**→**慎重**
 「A薬との併用によりA薬の作用が**増強**されるので併用は**慎重**に」→A薬の作用**増強**→**慎重**

【飲食物】

付録「薬物と飲食物・嗜好品との相互作用」の中に、その薬のデータの記載があることを表す。

【相互】《併用注意》1) モルヒネ製剤：作用**増強**→一方又は両方減量。本剤は高用量においてモルヒネに拮抗することあり→通常、併用回避(ベンタゾシン作用)。《その他》動物においてサリチルアミドとの併用で双方のCmaxが高くなることの報告→併用回避。併用時は本剤を減量等注意【飲食物】

【慎重】1) 薬物依存の既往歴 2) 麻薬依存患者(軽度の麻薬拮抗作用、時として禁断症状) 3) 胆道疾患(大量投与した場合Oddi括約筋を収縮)

【動態】Tmax：10分(0.5 mg/kg・筋注)、30分(1 mg/kg・筋注)、投与直後(0.5 mg/kg・静注) T_{1/2}：1.28±0.71 h (0.5 mg/kg・筋注)、2.02±0.5 h (1 mg/kg・筋注)、0.73±0.6 h (0.5 mg/kg・静注)

【注意】① 外來の場合、十分な安静後、安全を確認し帰宅させる ② 眠気、めまい、ふらつき等→運転等注意 【配合】バルビツール酸系注射液と同じ注射筒で混ぜると沈殿生成 回避(未確立) ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉

過量投与 症状：抗コリン作用によるとみられる口渇、せん妄、頻脈、イレウス、尿閉 処置：通常早期には活性炭投与、胃洗浄、必要に応じ、副交感神経興奮薬の投与及び尿閉の場合の導尿等適切な支持療法を行う

副作用 (重大) 1) 無顆粒球症→中止し処置 2) アナフィラキシー様症状(発疹、蕁麻疹等)→中止し処置 (その他) ① 1) 消化器(口渇、便秘、下痢、悪心・嘔吐、歯肉痛、膨満感) 2) 過敏症(発疹)→中止 3) 泌尿器(排尿困難、尿感) 4) 肝臓(AST・ALTの上昇) 5) 循環器(心悸亢進) 6) その他(頭重感、たちくらみ、脱力感、視覚、眼のちらつき、眼の乾燥感に伴う流涙、眼の調節障害) ② 1) 循環器(頻脈) 2) 消化器(口渇、悪心・嘔吐、下痢) 3) 過敏症(掻痒、発疹)→中止 4) 泌尿器(排尿困難) 5) 肝臓(ビリルビン値・AST・ALT・ALP・LDHの上昇) 6) その他(倦怠感、去痰困難、常視、複視、眼の調節異常)

保存 遮光

規制 注 劇 処方せん

過量投与

過量投与時の症状・処置法を記載した、添付文書の[副作用]に記載されている[過量投与]の情報もここにまとめた。

副作用

添付文書の全情報を「重大」と「その他」に分けて記載した。その対策があるものは、矢印(→)に続いて略記した。「その他」で、5%以上の頻度で発作するものには下線を付した。

保存

保存条件を記した。記載のないものは室温保存とする。

規制

法的規制について記載した。また、新薬について、投与期間の制限が解除される年月日を記した。

※各法的規制について、下記の略記号を用いた。

劇＝毒薬

劇＝劇薬

麻＝麻薬

向精神Ⅰ＝第1種向精神薬

向精神Ⅱ＝第2種向精神薬

向精神Ⅲ＝第3種向精神薬

覚＝覚醒剤

覚原＝覚醒剤原料

習慣＝習慣性医薬品

処方せん＝処方せん医薬品

生＝生物由来製品

特生＝特定生物由来製品

放射＝放射性医薬品

14日分制限・30日分制限・90日分制限＝

投与期間の上限

臨床解説 メトプロロール酒石酸塩

適用外使用 心不全の治療には5mgから開始し、1週間毎に倍量ずつ増量する(5～10～20～40mgなど)。著しく心機能が低下している場合には2.5mgから開始する。維持量は20～60mg/日

臨床解説

添付文書には記載されていないが、薬剤の特徴や選択、実際の使用法について、有用な臨床情報をそれぞれの専門医がまとめた。

適用外使用については注意喚起を目的に掲載した。その使用にあたっては、法的に問題があることを十分に認識した上で、インフォームド・コンセント等、しかなるべき対応が望まれる。

妊婦への薬物療法に対するリスク分類

オーストラリア医薬品評価委員会(ADEC-PC(ACPM))の分類基準を元に、以下の記号を記載した。

- 妊A** カテゴリーA 多数の妊婦および妊娠可能年齢の女性に使用されてきた薬だが、それによって奇形の頻度や胎児に対する直接・間接的有害作用の頻度が増大するといういかなる証拠も観察されていない。
- 妊B1** カテゴリーB1 妊婦および妊娠可能年齢の女性への使用経験はまだ限られているが、この薬による奇形やヒト胎児への直接・間接的有害作用の発生頻度増加は観察されていない。動物を用いた研究では、胎児への障害の発生が増加したという証拠は示されていない。
- 妊B2** カテゴリーB2 妊婦および妊娠可能年齢の女性への使用経験はまだ限られているが、この薬による奇形やヒト胎児への直接・間接的有害作用の発生頻度増加は観察されていない。動物を用いた研究は不十分または欠如しているが、入手しうるデータは胎児への障害の発生が増加したという証拠は示されていない。
- 妊B3** カテゴリーB3 妊婦および妊娠可能年齢の女性への使用経験はまだ限られているが、この薬による奇形やヒト胎児への直接・間接的有害作用の発生頻度増加は観察されていない。動物を用いた研究では、胎児への障害の発生が増えるという証拠が得られている。しかし、このことがヒトに関してもつ意義ははっきりしていない。
- 妊C** カテゴリーC その薬理効果によって、胎児や新生児に有害作用を引き起こし、または、有害作用を引き起こすことが疑われる薬だが、奇形を引き起こすことはない。これらの効果は可逆的なこともある。
- 妊D** カテゴリーD ヒト胎児の奇形や不可逆的な障害の発生頻度を増す、または、増すと疑われる、またはその原因と推測される薬。これらの薬にはまた、有害な薬理作用があるかもしれない。
- 妊X** カテゴリーX 胎児に永久的な障害を引き起こすリスクの高い薬であり、妊娠中あるいは妊娠の可能性がある場合は使用すべきでない。

授乳婦への薬物療法に対するリスク分類

「Medications and Mothers' Milk 2012」(Thomas W. Hale)の分類基準を元に、以下の記号を記載した。

- 授乳L1** **Safest: 最も安全** 授乳中の多数の母親が使用しているが、児に有害な影響が増加したという報告がない薬。授乳中の女性における対照研究でも、児に対するリスクが示されず、母乳を飲んでる児に害を与える可能性のほとんどないもの。もしくは、経口的に摂取しても、児に生体利用されないもの。
- 授乳L2** **Safer: 比較的安全** 研究の数は限られるが、授乳中の女性が用いても児に有害な影響が増加するという報告のない薬。もしくは、授乳中の女性が薬を使用した後にリスクが認められる可能性があるという根拠がほとんどない薬。
- 授乳L3** **Probably Safe: 概ね安全** 授乳中の女性における対照試験はないが、母乳を飲んでる児に不都合な影響が出る可能性のある薬。もしくは、対照試験でごく軽微で危険性のない有害作用しか示されていない薬。このような薬は、母親に対する潜在的な有益性が児に対する潜在的なリスクを凌駕する場合においてのみ投与されるべきである(論文になったデータがまったくない新薬は、いくらか安全であると考えられても、自動的にこのカテゴリーに分類される)。
- 授乳L4** **Possibly Hazardous: 悪影響の可能性** 母乳を飲んでる児や乳汁産生にリスクがあるという明らかな証拠があるが、授乳中の母親がその薬を使うことによって得られる有益性が、児に対する危険性を上回ると許容される薬(たとえば、命を脅かすような状況に必要な薬や、より安全な薬が使えなかったり、他の薬では効果がなかったりするような重篤な疾患の場合など)。
- 授乳L5** **Hazardous: 悪影響** 授乳中の母親における研究によって、児に対して重大で明らかなリスクがあることが、ヒトでの使用経験を基に示されているもの、すなわち、子どもに重大な障害を引き起こすリスクが高い薬。授乳中の女性がこのような薬を使うリスクは、母乳育児のどのような有益性をも明らかに上回っている。母乳育児をしている女性においては禁忌となる薬。

ACPM

From Prescribing medicines in pregnancy database, 2012. Therapeutic Goods Administration, used by permission of the Australian Government (<http://www.tga.gov.au/hp/medicines-pregnancy.htm>)

(R)Commonwealth of Australia

This work is copyright. You may download, display, print and reproduce the whole or part of this work in unaltered form for your own personal use or, if you are part of an organisation, for internal use within your organisation, but only if you or your organisation do not use the reproduction for any commercial purpose and retain this copyright notice and all disclaimer notices as part of that reproduction. Apart from rights to use as permitted under the Copyright Act 1968 or allowed by this copyright notice, all other rights are reserved and you are not allowed to reproduce the whole or any part of this work in any way (electronic or otherwise) without first being given specific written permission from the Commonwealth to do so. Requests and inquiries concerning reproduction and rights are to be sent to the TGA Copyright Officer, Therapeutic Goods Administration, PO Box 100, Woden ACT 2606 or emailed to tga.copyright@tga.gov.au.

分類基準日本語版: 妊娠中の投薬とそのリスク・第4次改訂版(雨森良彦・監修、医薬品・治療研究会、医薬品・治療研究会、2001、より転載)

免責事項

妊婦への薬の使用に関するオーストラリアの分類基準とデータベースは、医療や科学の専門家によって、妊娠中に特定の薬を服用に伴うリスクのエビデンスに基づいてつくられている。この情報は、一般市民よりもむしろ妊婦に薬を処方する医療専門家への使用のために示されている。これは医療専門家や一般市民への医学的なアドバイスとして示されているものではない。医療専門家のアドバイスの代用として使用するものでもない。

MMM

Medications and Mothers' Milk, 15th edition, A Manual of Lactational Pharmacology 2012 (Thomas W. Hale), HALE PUBLISHING, 2012.



抗造血器悪性腫瘍剤

薬価基準収載



レブラミド® カプセル 5mg

Revlimid® Capsules

レナリドミド水和物カプセル剤

毒薬 処方せん医薬品®

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

「警告」「禁忌」「効能・効果」「用法・用量」「効能・効果に関連する使用上の注意」「用法・用量に関連する使用上の注意」「使用上の注意」は、製品添付文書をご参照ください。

www.revlimid-japan.jp

セルジーン株式会社

(1209)



選択的DPP-4阻害剤 [2型糖尿病治療剤]

処方せん医薬品^{※1}

薬価基準収載

ネシーナ錠[®] 25mg
12.5mg
6.25mg

(アログリプチン安息香酸塩) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

2012年10月作成



〔資料請求先〕

武田薬品工業株式会社

医薬営業本部

〒100-8585 東京都中央区日本橋二丁目12番10号

薬物療法の基本的注意

1~24

肝障害時の薬物療法	2
腎障害時の薬物療法	3
心不全時の薬物療法	6
妊婦・授乳婦の薬物療法	8
高齢者の薬物療法	10
新生児・幼小児の薬用量	11
新生児に一般的に用いられる治療薬・ 使用してはならない治療薬	16
薬疹の診方と対応	19

図解 薬理作用

25~42

関節リウマチ、統合失調症、気分障害(うつ病性障害・双極性障害)、てんかん、パーキンソン病、心不全、不整脈、高血圧、脂質異常症、消化性潰瘍、喘息、糖尿病、貧血、動脈血栓症、静脈血栓症

添付文書情報と臨床解説

01 解熱・鎮痛・抗炎症薬	45
非麻薬性鎮痛薬(オピオイド)	51
ピリン系解熱鎮痛薬	59
非ピリン系解熱鎮痛薬	59
合剤	61
非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)	67
末梢性神経障害性疼痛治療薬	99
消炎・鎮痛坐薬	101
小児用解熱坐薬	107
02 片頭痛治療薬	109
トリプタン系薬剤	112
Ca拮抗薬	118
麦角アルカロイド	119
03 抗リウマチ薬	123
抗リウマチ薬(DMARDs)	127
金製剤	151
経皮吸収型ステロイド剤	153

04 痛風・高尿酸血症治療薬

155

発作治療薬 160

高尿酸血症治療薬 161

がん化学療法用尿酸分解酵素製剤 166

05 催眠・鎮静薬

167

ベンゾジアゼピン系薬物 169

バルビツール酸誘導体 182

その他 184

06 抗不安薬

191

ベンゾジアゼピン系 193

非ベンゾジアゼピン系 205

07 抗精神病薬

209

新世代(非定型)抗精神病薬群 213

定型抗精神病薬群 228

持効型抗精神病薬 248

08 抗うつ薬・気分安定薬・精神刺激薬

253

抗うつ薬 256

気分安定薬(抗躁薬) 282

精神刺激薬 284

09 抗てんかん薬

291

フェニトイン系 296

バルビツール酸系 303

ブリミドン 306

フェニトインとバルビツール酸系の合剤 307

バルプロ酸ナトリウム 309

カルバマゼピン 311

オキサゾリジン系 313

フェナセド系 314

スルチアム 315

ベンゾジアゼピン系 315

ベンズイソキサゾール系 317

ガバペンチン 318

トピラマート 319

ラモトリギン 320

レベチラセタム 322

10 パーキンソン病/症候群治療薬

325

レボドパ製剤 332

ドパミン受容体作用薬(アゴニスト) 336

モノアミンオキシダーゼ B 阻害薬 345

末梢カテコール-O-メチル転移酵素		
(COMT)阻害薬	347	
抗コリン薬	348	
アマンタジン塩酸塩	352	
ノルアドレナリン系作用薬	354	
ゾニサミド	355	
11 脳循環代謝改善薬	357	
脳の生理的活性物質	359	
その他の薬物	360	
脳循環改善薬	361	
12 筋弛緩薬	365	
麻酔・手術用注射薬	367	
悪性高熱症・悪性症候群の治療薬	370	
痙攣・筋緊張治療薬	371	
ボツリヌス毒素	378	
筋弛緩薬	381	
13 自律神経系作用薬	383	
副交感神経興奮薬	385	
副交感神経抑制・遮断薬	390	
その他	398	
14 抗めまい薬	401	
抗ヒスタミン薬	402	
脳血管拡張薬	403	
15 その他の神経系用薬	405	
筋萎縮性側索硬化症(ALS)用薬	410	
脊髄小脳変性症治療薬	410	
脳保護薬	411	
アルツハイマー型認知症治療薬	412	
ミオクロノス治療薬	418	
多発性硬化症治療薬	418	
16 強心薬	425	
ジギタリス製剤	429	
カテコールアミン系薬剤	435	
ホスホジエステラーゼIII阻害薬	442	
α 型ヒト心房性ナトリウム利尿ポリペプ チド製剤	444	
キサンチン系薬剤	445	
その他の強心薬	446	
17 抗狭心症薬	449	
硝酸薬	452	
カリウムチャンネル開口薬	460	
その他の冠拡張薬	461	
18 β遮断薬	465	
β_1 非選択性でISAのないもの	470	
β_1 非選択性でISAのあるもの	473	
β_2 選択性でISAのないもの	478	
β_2 選択性でISAのあるもの	487	
α, β 遮断薬	490	
血管拡張作用のあるもの	496	
19 Ca拮抗薬	499	
ジヒドロピリジン系薬剤	502	
ベラパミル	516	
ジルチアゼム	519	
20 抗不整脈薬	523	
第I群(Naチャンネル抑制)	529	
第II群(β 遮断薬) $\Rightarrow$ 465		
第III群(再分極遅延薬)	548	
第IV群(Ca拮抗薬)	555	
21 利尿薬	559	
サイアザイド系利尿薬	562	
サイアザイド系類似薬	565	
ループ利尿薬	568	
カリウム保持性利尿薬	573	
その他の利尿薬	576	
22 降圧薬	583	
ACE阻害薬	591	
アンジオテンシンII受容体拮抗薬	605	
ARB合剤	612	
直接的レニン阻害薬	623	
選択的アルドステロン拮抗薬	624	
交感神経抑制薬	625	
血管拡張薬	631	
合剤	634	
23 末梢循環障害治療薬	637	
ニコチン酸系	637	
PG製剤 $\Rightarrow$ 1036		
β 刺激薬 $\Rightarrow$ 1035		
24 脂質異常症用薬	639	
HMG-CoA還元酵素阻害薬	644	
フィブラート系薬剤(CPIB)	651	
小腸コレステロールトランスポー ター阻害薬	655	
ニコチン酸および誘導体	656	
イオン交換薬	657	
プロブコール	658	
植物ステロール	659	
その他	660	
25 昇圧薬	663	
カテコールアミン系 $\Rightarrow$ 強心薬	435	
非カテコールアミン系昇圧薬	663	

その他の昇圧薬	664	膵消化酵素補充剤	813
26 アレルギー治療薬	667	33 下剤	815
抗ヒスタミン薬	670	緩下剤	817
抗アレルギー薬	675	刺激性下剤	820
非特異的刺激療法薬	695	その他	823
その他のアレルギー治療薬	697	34 止痢・整腸薬	827
27 気管支拡張薬・喘息治療薬	699	止痢薬	830
β_2 -アドレナリン受容体刺激薬	704	乳糖分解酵素薬	832
吸入用ステロイド薬	719	過敏性腸症候群治療薬	833
キサンチン誘導体	729	炎症性腸疾患治療薬	836
吸入用抗コリン薬	740	整腸薬	839
モノクローナル抗体	743	その他	841
28 鎮咳薬	745	35 その他の消化器用薬	843
中枢性麻薬性鎮咳薬	746	蛋白分解酵素阻害薬(膵炎治療薬)	845
中枢性非麻薬性鎮咳薬	751	肝疾患治療薬	848
生薬	754	利胆薬	853
29 去痰薬	755	胆石溶解薬	853
粘液溶解薬	757	制吐薬	855
粘液修復薬	758	催吐薬	861
粘膜潤滑薬(肺サーファクタント産生促進薬)	759	36 糖尿病用薬	863
気道分泌細胞正常化薬	760	・インスリン製剤	869
その他	760	超速効型インスリン	869
30 その他の呼吸器用薬	763	速効型インスリン	875
呼吸中枢刺激薬	765	中間型インスリン	878
好中球エラスターゼ阻害薬	766	混合型インスリン	881
抗線維化薬	767	持効型溶解インスリンアナログ製剤	884
新生児呼吸窮迫症候群治療薬	768	GLP-1 受容体作動薬	888
31 消化性潰瘍治療薬	769	・経口血糖降下薬	891
・酸分泌抑制薬(制酸剤)	772	スルホニルウレア系(SU 剤)	891
H ₂ 受容体拮抗薬	772	ビグアナイド系	899
プロトンポンプ阻害薬	778	インスリン抵抗性改善薬	902
選択的ムスカリン受容体拮抗薬	788	食後過血糖改善薬(α グルコシダーゼ 阻害薬)	904
抗ガストリン薬	788	速効型食後血糖降下薬	907
抗コリン薬	789	DPP-4 阻害薬	911
・酸中和薬	790	配合剤	915
・粘膜抵抗増強薬	792	糖尿病性末梢神経障害治療薬	923
潰瘍病巣保護薬	792	37 下垂体ホルモン製剤	925
組織修復促進薬	794	成長ホルモン製剤	930
・粘液産生・分泌促進薬	797	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)製剤	934
・胃粘膜微小循環改善薬	799	ゴナドトロピン製剤	935
・ヘリコバクター・ピロリ除菌薬	801	下垂体後葉ホルモン製剤	941
・その他の合剤	802	38 副腎皮質ホルモン製剤	945
32 健胃・消化薬	803	コルチゾン、ヒドロコルチゾン類	948
健胃薬	805	プレドニゾン、プレドニゾロン類	955
総合消化酵素	811		

メチルプレドニゾロン類	961	(SERM)	1098
トリアムシノロン類	968	副甲状腺ホルモン製剤	1099
デキサメタゾン類	972	その他	1101
ベタメタゾン類	979	43 ビタミン製剤	1103
副腎皮質ホルモン合剤	984	ビタミンA製剤	1122
39 性ホルモン製剤	987	ビタミンD製剤⇒1083	
・女性ホルモン製剤	993	ビタミンB ₁ 製剤	1122
卵胞ホルモン製剤	993	ビタミンB ₂ 製剤	1125
黄体ホルモン製剤	1006	ビタミンB ₆ 製剤	1126
卵胞および黄体ホルモン配合剤	1009	ナイアシン	1127
・男性ホルモン製剤	1018	ビタミンB ₁₂ 製剤	1128
経口剤	1018	葉酸(フォラシン)	1129
注射液	1018	パントテン酸	1130
・両性混合ホルモン製剤	1019	ビタミンC製剤	1131
40 その他のホルモン製剤	1023	ビタミンE製剤	1131
・その他のホルモン製剤	1035	ビオチン製剤	1132
甲状腺性循環系ホルモン	1035	ビタミンK製剤	1132
子宮頸管熟化薬(DHEA-S製剤)	1035	複合ビタミン剤	1134
プロスタグランジン製剤(PG製剤)	1036	総合ビタミン剤	1137
唾液腺ホルモン	1042	44 造血と血液凝固関係製剤	1141
・ホルモン様作用を有する関連物質	1042	・鉄剤	1155
排卵誘発薬	1042	経口用鉄剤	1155
子宮内膜症治療薬	1043	注射用鉄剤	1157
GnRH誘導体	1045	・止血剤	1158
持続性ドパミン作動薬	1049	対血管性止血剤	1158
・甲状腺機能異常治療薬	1050	抗プラスミン剤	1159
甲状腺ホルモン製剤	1050	凝固促進剤⇒1132	
抗甲状腺薬	1052	静脈血栓硬化剤	1159
・その他	1054	酵素止血剤	1161
蛋白同化ホルモン	1054	外用止血剤	1162
副腎皮質ホルモン合成阻害薬	1055	凝固因子製剤	1163
成長ホルモン分泌抑制因子製剤	1055	・抗血栓剤	1173
成長ホルモン受容体拮抗薬	1057	血栓溶解剤	1173
ゴナドトロピン分泌ホルモン製剤	1058	血小板凝集抑制剤	1179
二次性副甲状腺機能亢進症治療薬	1058	ヘパリン製剤と抗ヘパリン製剤	1189
41 子宮用薬	1061	抗トロンビン薬	1196
切迫早産治療薬	1061	直接トロンビン阻害剤	1199
子癰治療薬	1064	経口抗凝固剤(クマリン系抗凝固剤)	1201
β刺激薬	1065	血液凝固阻止剤	1204
42 骨粗鬆症・骨代謝改善薬	1067	・エリスロポエチン製剤	1211
活性型ビタミンD ₃ 製剤	1083	・G-CSF製剤	1218
ビタミンK製剤	1088	・血小板減少症治療薬	1223
カルシトニン製剤	1088	・白血球減少症治療薬	1225
ビスホスホネート製剤	1090	45 輸液・栄養製剤	1229
選択的エストロゲン受容体モジュレーター		糖質輸液用製剤	1232

脂肪乳剤	1233	• クロラムフェニコール系	1457
高カロリー輸液用製剤	1235	• マクロライド系	1458
アミノ酸製剤	1250	14 員環系	1458
血漿代用剤	1262	15 員環系	1466
マンニトール製剤	1263	16 員環系	1471
アシドーシス治療薬	1264	• リンコマイシン系	1473
経口・経腸栄養剤	1266	化学療法剤	1476
46 電解質製剤	1281	• サルファ剤	1476
電解質製剤	1282	• キノロン薬(ピリドンカルボン酸薬)	1477
内服電解質剤	1299	キノロン薬	1477
電解質補正用剤	1299	ニューキノロン薬	1478
カリウム補給剤	1301	• オキサリジノン系	1494
カルシウム補給剤	1305	• 抗結核薬	1496
無機質製剤	1307	• その他の化学療法剤	1505
血清カリウム抑制剤	1307	50 抗真菌薬	1509
高リン血症治療薬	1308	ポリエン系抗生物質	1510
47 灌流用剤	1311	フルシトシン(5-FC)	1515
腹膜透析液	1311	イミダゾール系	1516
人工腎臓用透析液	1316	トリアゾール系	1517
濾過型人工腎臓用補充液	1321	アリルアミン系	1528
心臓外科手術用心停止及び心筋保護液	1322	キャンディン系	1530
脳脊髄手術用洗浄・灌流液	1323	ニューモシスチス肺炎治療薬	1531
48 解毒薬・中毒治療薬	1327	51 抗ウイルス薬	1535
薬物中毒治療薬	1328	ヘルペスウイルス感染症治療薬	1537
アルコール中毒治療薬	1329	サイトメガロウイルス感染症治療薬	1544
重金属その他の中毒治療薬	1330	抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体	1549
ウィルソン病治療薬	1338	HIV 感染症治療薬	1550
麻薬中毒治療薬	1339	インフルエンザ治療薬	1595
ベンゾジアゼピン受容体拮抗薬	1340	B 型肝炎治療薬	1601
放射性物質による体内汚染防衛剤	1341	C 型肝炎治療薬	1605
筋弛緩回復薬	1343	インターフェロン製剤	1615
49 抗菌薬	1345	その他の抗ウイルス薬	1630
抗菌スペクトル一覧表	1356	52 寄生虫・原虫用薬	1631
殺菌性抗生物質	1369	マラリア治療薬	1633
• β ラクタム抗生物質	1369	原虫治療薬	1636
ペニシリン系	1369	線虫駆除薬	1638
セファロスポリン系	1385	回虫駆除薬	1638
モノバクタム系	1416	鞭虫駆除薬	1638
カルバペネム系	1418	糞線虫駆除薬	1639
ベナム系	1426	フィラリア(糸状虫)駆除薬	1640
• アミノグリコシド(アミノ配糖体)系	1428	吸虫駆除薬	1640
• ホスホマイシン系	1441	包虫駆除薬	1641
• その他の殺菌性抗生物質	1443	53 抗癌剤	1643
静菌性抗生物質	1452	アルキル化剤	1650
• テトラサイクリン系	1452	代謝拮抗剤	1664